

“MY TOWN” うおっちゃんぐ

歩キ目デス & 足ラテス

Vol.55

新町商店街 ぶらり散歩…八幡浜市

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・
ヘリテージマネージャー



⑤新町・金本本店

八幡浜市の商店街に視点を当ててみよう。八幡神社のある浜をその名の起りとする。八幡浜は、沖へ埋め立て現在の市街地が形成された。その八幡神社から大法寺を圍繞するよう、二本のアーケード商店街がT字型に伸びる。現代は、どこの地方都市でもそうであ

るように、ここもシャッター通りとしての問題を抱えてはいるが。

この町の特徴をもう少し概観してみよう。近世以降、南予特有のリアス式海岸を

埋め立て造成された歴史を持つこの町は、周辺に殆ど余地が無く、まるで密集居住区のような感がある。しかも、良い事なのだが、震災にもあつていないから、商店街と交差する道は何れも狭く、拡張された部分はわずかである。車社会からすれば、結果的に不適合なタイプの都市なのかも知れない。

こう書くと、ナンだか悪い事ばかりの印象になってしまいが、勿論さにあらず。逆もまた真ナリで、視点を換えれば街は歴史的魅力にあふれている。

まず、新町角（T字型の交点）にあるのは、宇和島藩政時代、藩内十組支配の一つ矢野組代官所の跡（写真①）。当時の建物は郡役所などに姿を変えながら、大正初めに取り壊されたらしいが、庭にあった「代官所の松」というのが40年ほど前まであり、市民に親しまれていた。

その直ぐ前に伊予鉄タクシーがあるが、ここは昭和初期に三共自動車(株)が創立された際に営業所となった場所で、近代の交通史では縁の場所。元々八幡浜では、大正3



①新町角・代官所跡

年（1914）に伊豫自動車(株)が創立されるが、それが県下初の乗り合いバスのスタートだった。昭和に入ると中予自動車と合併して中央自動車会社と改称、やがて他の愛媛自動車（今治）、内子自動車と三社合併したのが三共自動車だった。後々これは伊予鉄バスになってゆく。

さて、ここから北に延びる約800mのアーケードが新町筋で、ぶらり散歩を楽しもう。時々注意していると、裏筋へ抜ける狭い路地があり、意外な場所に井戸（写真②）があったりもする。きっと昭和初期の水道事業以前から、生活利用をされてきた井戸に違いない。

それから、こうした商店街を歩く際のコツとして、出来るだけ上の方に視線を運ぶと、かつての歴史が顔を出す。写真③④などは、かなり豪華な左官仕事のモルタル装飾で、昭和5年に建てられたとの事。当時流行した擬洋風商店の意匠である。よく見ると、メダリオンを配したアーチ状のデザインがいくつか続き、元はつながった建築物である事も分かる。向かって左端から右端まで、何れも



②新町・井戸



③新町・旧明地商店



④新町・旧明地商店



⑧新町・櫻屋



⑨新町・櫻屋



⑥新町・金本本店

戦後に購入または借りて入られた店舗が7店もあり、聞けばかつては明地商店という建物だったらしい。因みに、中の一軒はロンドンという店で、ちゃんぼん人気で賑わっている。角店の



⑦新町・田丸屋

下が幌布製だった頃の名残り。もうその頃を知る方も随分と少なくなってきた。同じく、カバン専門店田丸屋さん（写真⑦）もナカナカのもの。

池田新店でお話しを伺うと、その場所は改築前は木造三階建ての擬洋風建築で、※伊予相互貯蓄銀行が入っていたと教えて頂いた。続いてこちらのシックな建物（写真⑤）は、明治期に建てられた和洋金物商金本本店。今となっては大変貴重な銅版張り。年代を経て、緑青の色合いが見事である。また、よく観察すると、軒先に滑車が二個（写真⑥）ブラ下がつており、これはかつてのアーケー

もの。土蔵塗り込め風な重厚な建物に、軒先の折り上げをやはり銅版であしらっている。最後に海運業で財を成した櫻屋村田吉右衛門家を紹介しておこう。（写真⑧⑨）外観は改造されていくが、明治10年に建築された商家建築が新町5丁目に残っている。数奇家の風趣があり、二階には茶室の設えもある。書院欄間の組格子や、床の間の違い棚、床柱なども凝った作りが施され、

当時の八幡浜商人の高い文化レベルが伺える。この建物が建った時代の八幡浜は、呉服太物商が繁盛し、「伊予の大阪」と称されるほどに上方交易が盛んとなっていた。油屋菊池清治家（浜之町）では既に明治8年に外輪蒸気船八幡丸を走らせ、櫻屋でも後に初の鋼鉄船神山丸を就航させている。同16年には八幡浜港の移出入額は県下一位になってもいる。流石に八幡浜に過ぎたるものが三つある、と謳われた「村田の玄関」（唐破風の武家造りで古写真が残る）は既に無いが、子孫の方のご好意で、市民のために希望者には時折り内部を見学させて頂けるのが有り難い。八幡浜は決して観光地では無いし、それほど着目もされてはいないが、幹線などの表からは見えない部分に、本当の良さが潜んでいる。ちよつとした街歩きで、商店街のアチコチに散見するレトロ口意匠も、隠すのではなくむしろ堂々と見せるように仕向けた方が、意外に喜ばれる時代になっているのかも知れない。

※八幡浜商工会議所百年史、P63に写真。